

～下記の研究を行います～

『術前化学療法におけるアルブミン懸濁型パクリタキセル (アブラキサン)の治療強度に影響を及ぼす要因についての検討』

当院では、以下の臨床研究を実施しております。

この研究は、「後ろ向き観察研究」と呼ばれる研究手法を用いて、通常の診療で得られた情報の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。

【研究課題名】術前化学療法におけるアルブミン懸濁型パクリタキセル(アブラキサン)の治療強度
に影響を及ぼす要因についての検討

【研究の主宰機関】大阪医療センター 薬剤部

【研究責任者】垣内 万依

【研究の目的】乳腺外科術前化学療法に用いられるアルブミン懸濁型パクリタキセル(アブラキサン)の、休薬や減量に影響を及ぼす要因について検討する

【研究の期間】2010年7月～2015年11月

【研究の方法】診療録より後方視的に調査

●対象となる患者さん

術前化学療法として2010年7月～2015年11月にアルブミン懸濁型パクリタキセル(アブラキサン)を投与した乳癌患者63名

●利用するカルテ情報

①患者基本情報：年齢、身長、体重、肝炎の既往、各コース投与日・投与量、休薬・減量の有無、悪心・嘔吐、末梢神経障害、検査値(AST、ALT、T-Bil、CRE、好中球数)

②疾患情報：乳癌

『個人情報の取り扱いについて』 利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

『データの保管期間と廃棄方法について』 専用USBにて鍵のかかる場所で保管し、発表後データは削除いたします。

『本研究の資金源について』 利益相反なし

～お問い合わせや研究対象となることを拒否される場合は下記連絡先までお願いします～

国立病院機構大阪医療センター 薬剤部

TEL (06) 6942-1331 (代)

研究責任者 薬剤部 薬剤師 垣内万依